

2023年(来学期)の交通大學、景文科技大學日本語朗讀コンテスト 出場希望者募集のお知らせ

来学期に開催されるはずの交通大學日本語朗讀コンテスト(昨年は10月1日開催、募集期間は9月頃)、景文科技大學日本語朗讀コンテスト(昨年は12月15日開催、募集期間は10月下旬)への出場希望者を募集します。

これら二つのコンテストは、運営側が正式な募集告知を出してから出場定員が埋まるまでの時間が極端に短いという特徴があります(一日か二日ぐらいで埋まってしまうことがあります)。よって、運営側の募集告知が出た後に南台側で出場希望者を募集し、指導教員を決めるというやり方をとっていると、学生が運営側に申し込みをしようとした時には定員がもう一杯になっていて申し込みができない、ということが、これまでに何度もありました。

そのような事態を避けるため、今回から、運営側の募集告知が出る前に、出場希望者を集め、指導教員も決めておくというやり方に変えることにしました。これらのコンテストに出場したい人は、今回の校内募集に応募してください。

注意!

「今回の校内募集に応募し、出場希望者として選ばれること」=「コンテストへの出場決定」ということではありません。上に述べたように、これらのコンテストの場合、出場者がすぐに決まってしまうので、申し込もうとしても申し込みが間に合わない可能性が高いからです。よって、「今回の校内募集に応募し、出場希望者として選ばれること」=「コンテストに南台代表として申し込む資格が出来たということ(ただし、申し込みが成功するかどうかはわからない)」という風に理解した上で、今回の校内募集に応募して下さい。

1. 募集事項

- 交通大學朗讀コンテスト、及び、景文科技大學朗讀コンテストへの出場希望者。
- 交通大學朗讀コンテストの方は最大7人、景文科技大學朗讀コンテストの方は最大3人、あわせて最大10人以内の出場希望者を募集します(指導教員は榊、神作、桑澤、富永の予定)。
- 両方に出場希望することも可能です。
- 応募者が最大指導人数(あわせて10人以内)を大きく越えた場合、校内選抜を行います。校内選抜は、日本語能力検定試験の級や面接(こちらが用意した文章を朗讀してもらう形)の結果などをふまえて行う予定です。また、片方のコンテストのみ応募者が最大指導人数を越え、もう一方のコンテストへの応募者が少ないような場合は、調整を行います。
- 来学期、海外インターンシップや留学に行く予定がある人は応募をしないようにしてください。

2. 応募方法と締め切り

- こちらが用意した Google フォームで申し込んでください。
- 校内応募締め切り:2023 年 5 月 25 日(木) 24:00

校内選抜(予選)について

- 校内選抜が**必要になった場合**、以下の日時に行います。
- 校内選抜の日時(予定):2023 年 5 月 31 日(水) 18:00~ ※場所:N408(予定)

3. 応募通過者発表

- 校内選抜を行わなかった場合
→ 2023 年 5 月 29 日(月)に、指導が決定した学生の名前と指導教員を発表
- 校内選抜を行った場合
→ 2023 年 6 月 2 日(金)に、指導が決定した学生の名前と指導教員を発表

4. 外語実務素養点について

- これらのコンテストに出場することで外語実務素養点を取得したい場合には、先生の指導を受ける必要があります。
- 先に述べたように、今回の校内募集で選ばれたとしても、コンテストへの申し込みが成功する(=コンテストへの参加が決定する)とは限りません。コンテストへの参加が出来なかった場合は、外語実務素養点は当然与えられないので、そのことを理解して、今回の募集に応募して下さい。
- 「参加俳句、漢字、朗読、專業英日文詞彙與聽力能力大賽等比賽，且確實接受 10 小時以上訓練者，俳句比賽 2 點，漢字、朗讀、專業英日文詞彙與聽力 能力大賽比賽 1 點，因此而獲得進入前三名者，再給予 2 點(無上限)。」(「應用日語系外語實務實習 素養認定要點」)

5. その他

- 今回の募集で、コンテストへの出場希望者として選ばれた学生のみなさんは、交通大學、景文科技大學の朗讀コンテストの募集情報に注意し、募集の告知が出たら、すぐに申し込みの作業を行って下さい。

6. 連絡先

- 質問などがある場合、榊祐一宛てにメールで問い合わせてください。
- メールアドレス:sakaki@stust.edu.tw

● 校内選抜用朗読文章

「ではみなさんは、そういうふうには川だと言われたり、乳の流れたあとだと言われたりしていた、このぼんやりと白いものがほんとうは何かご承知ですか」先生は、黒板につるした大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなところを指しながら、みんなに問いをかけました。

カムパネルラが手をあげました。それから四、五人手をあげました。ジョバンニも手をあげようとして、急いでそのままやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだのですが、このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちがするのです。

ところが先生は早くもそれを見つけたのです。

「ジョバンニさん。あなたはわかっているのでしょうか」

ジョバンニは勢いよく立ちあがりましたが、立ってみるともうはっきりとそれを答えることができないのです。ザネリが前の席からふりかえって、ジョバンニを見てくすくとわらいました。ジョバンニはもうどぎまぎしてまっ赤になってしまいました。先生がまた言いました。

「大きな望遠鏡で銀河をよく調べると銀河はだいたい何でしょう」

やっぱり星だとジョバンニは思いましたが、こんどもすぐに答えることができませんでした。

先生はしばらく困ったようでしたが、眼をカムパネルラの方へ向けて、

「ではカムパネルラさん」と名指しました。

するとあんなに元気に手をあげたカムパネルラが、やはりもじもじ立ち上がったままやはり答えができませんでした。

先生は意外なようにしばらくじっとカムパネルラを見ていましたが、急いで、

「では、よし」と言いながら、自分で星図を指しました。

「このぼんやりと白い銀河を大きないい望遠鏡で見ますと、もうたくさん小さな星に見えるのです。ジョバンニさんそうですね」

ジョバンニはまっ赤になってうなずきました。

※宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より